



発行日：平成 30 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 37 回海部会 WG を開催しました！

7 月 30 日（月）に第 37 回海部会WGを開催しました。
今回の WG では、三河湾のアサリ資源の減少と海の環境をテーマとして、吉田海岸のアサリ漁場の現状をみるとともに、豊かな海に回復するために何が求められているのか、意見交換を行いました。

日時：H30 年 7 月 30 日（水） 13:30～16:30

場所：西尾市吉良支所 会議室

参加者：20 名（事務局含む）



◆主な活動内容

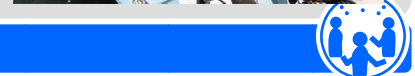
1：吉田海岸のアサリ漁場の現地視察 吉田漁協石川組合長からの話題提供

- 吉田漁協のアサリ漁場となる一色干潟は日本の三大干潟の一つであり、3～4年前まではアサリ全国一位の漁獲量があり、愛知県の70～80%を占めていました。
- しかしながら、現在はほとんどアサリの漁獲がなく、昨年は六畳干潟の稚貝を放流したが全く効果がありませんでした。
- 潮干狩りにこられる人も以前は制限である4kgを大幅に超えるくらいのアサリを持って帰ることができましたが、今はほとんど獲ることができません。
- その原因が特定できないままきていましたが、近年の愛知県水産試験場の調査結果から何が影響しているのか、わかりつつあります。
- この干潟の中でも所々にアサリの生息する場所がありますが、なぜ、そこに稚貝が着底して成長しているかは不明です。
- また、この近辺では今まで生息していなかったハマグリが自生するようになってきており、それが海の環境の変化の表れであると思います。アサリが好む環境とハマグリが好む環境は異なります。
- 昨年からはハマグリの子供をやっていますが、生産に結び付くには長い年月が必要であると感じています。



2：愛知県水産試験場の調査結果の概要説明 石田会員からの話題提供

- なぜ、アサリが急激に減少したか・・・色々な検討が進められている中で栄養塩が不足しつつあるという考えにたどり着きました。
- 様々な環境条件が連動して、海の環境が形成されている中で、特に陸域からの栄養塩の供給が重要であります。
- 色々な変化がある中で、唯一直線的に変化しているのが、陸域からの栄養塩の排水制限であり、それと同時に水産資源が直線的に減少しているという傾向があります。
- 伊勢湾、三河湾に流入する陸域から発生源推測結果によると、最近のリンの発生量は1980年頃の発生量が1/2程度であり、チッ素については3～4割程度との報告があります。
- 陸域からの排水規制をやっても貧酸素は解消されていません。
- 総排水量規制は貧酸素水の環境改善に効果がないということがわかってきました。
- 干潟域で鳥がなくなったという話であるが、ゴカイや貝など餌生物が減少したのが要因と言われています。
- 汐川干潟でも同じ現象が起きている。過去はドロドロした干潟であったが、今は固くてきれいな干潟にかわってしまっています。





- 10月くらいに今の状況からどのようにアサリの生息状況が変化するかを再度見る機会を設けるのも良い。8月、9月で貧酸素水塊によって何らかの影響があるので、その変化も見てみたい。(石川)
- 今、三河湾事務所が色々とアセス関係でアサリの調査をしているので、その状況報告を10月あたりに実施してもらうことは可能か？(青木)
- 港湾事務所では六畳干潟を中心に平成27年から3年かけて調査を実施してきた。今、とりまとめ中であり、現時点では工程が未定である。(東方)
- 10月に現地をみると同時に、港湾事務所の調査結果の報告があるとよい(青木)
- 有明海で改良素材を置いて、アサリが増えたという研究事例があるので、それを東幡豆で実践したい。それを観察するというのもよい。東幡豆の干潟は環境的にも条件がよいと思う。(井上)
- 吉田漁協の組合長は、これまでも様々な調査を実践されており、経験、知識も豊富であることから、もう1度、吉田海岸の現地を見て、組合長の話聞く場を設けたい。(石田)
- 今のままでは三河湾から漁業がなくなってしまう恐れがある(石川)
- 昔30年位前、西三河でノリ漁業者は550件、今は19件であり、あと数年でノリ漁業者はゼロになる恐れがある。多くの人はアサリ漁業に転換した。(天野)
- トリガイやバカガイが成長しているのだから、全く餌がないわけではないように思う。アサリの減少要因がわかれば、その対策を施すことができる。(天野)
- アサリが完全に成熟していないのに産卵する、未熟児が多くなるという悪循環ができる。ウミグモが入っている個体は栄養が半分消費しているので、赤潮や冬場の餌不足で斃死しやすくなる。(石田)
- 4月にアサリの中にカイヤドリグモが入っているのを確認した。カイヤドリウミグモは昔から三河湾にいたのか？どこからか移入したのか？また、三番瀬にハマグリに似た外来種のホンピノスが非常に多いが、こういうものに寄生してやってきたものではないか？(天野)
- 千葉県で見つかったのが初めてであり、種としては有明海などに昔からいたという説である。今、猛威をふるっているのは海外から移入したものと思われる。ホンピノスは東京湾では自然に定着した可能性があり、生態的に適した環境であったようで、急激に増加した。水温がやや低いところに適応しており、三河湾、伊勢湾には少ない。(石田)
- アサリの代用品としては、ハマグリがよいのではないかとと思う。伊勢湾では最近自然繁殖に近づきつつある。元々伊勢湾、三河湾で大量に漁獲されていた種でもある。(石田)
- 三河湾でハマグリが増えているということは、ハマグリの生息に適応した環境に変わりつつあるのではないか。干潟がきれいになっていることが関係していると思う。(石川)



今後のスケジュール (予定)

海の地域部会は、10月を予定しています。詳細は別途開催案内でお知らせいたします。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、事務副所長 末松
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 調査係長 服部

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。

